

I 調査結果の概要

1 平成27年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万4,820ha（対前年産比98%）、球根類が364ha（同96%）、鉢ものの類が1,732ha（同98%）、花壇用苗ものの類が1,488ha（同100%）となった。

出荷量は、切り花類が38億6,700万本（同98%）、球根類が1億200万球（同94%）、鉢ものの類が2億2,960万鉢（同98%）、花壇用苗ものの類が6億6,600万本（同96%）となった。

表1 平成27年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付(収穫)面積 ha	出荷量 万本(球・鉢)	対前年産比	
			作付(収穫)面積 %	出荷量 %
切り花類	14,820	386,700	98	98
球根類	364	10,200	96	94
鉢ものの類	1,732	22,960	98	98
花壇用苗ものの類	1,488	66,600	100	96

注：1 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。

2 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万4,820haで、前年産に比べ270ha（2%）減少した。

出荷量は38億6,700万本で、前年産に比べ8,200万本（2%）減少した。

品目別出荷量割合は、きくが41%、カーネーション及びばらが7%となっており、この3品目で全体の5割以上を占めている。

図1 切り花類の品目別出荷量割合

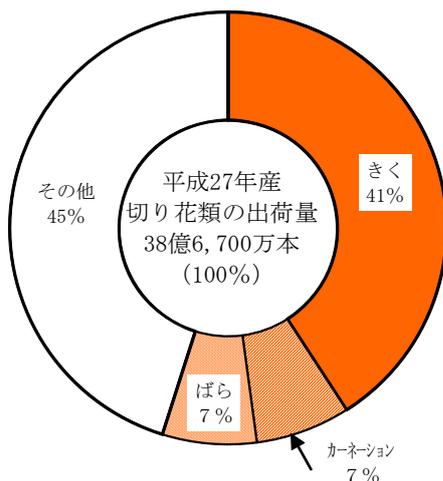


図2 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

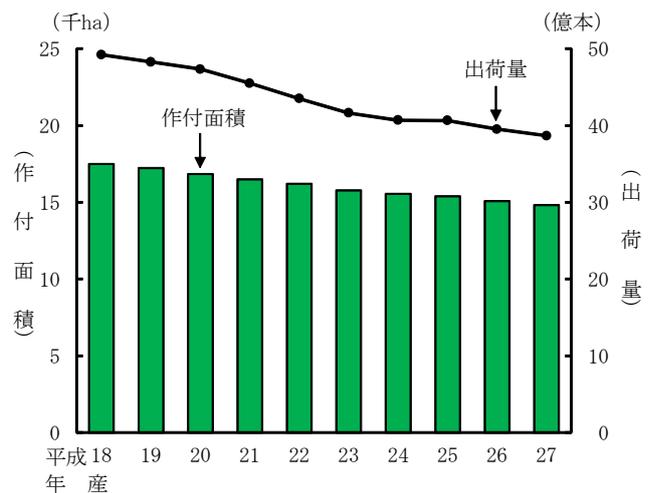


表2 平成27年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
	ha	万本	%	%
切 り 花 類	14,820	386,700	98	98
う ち ぎ	4,990	158,100	100	101
う ち 輪 ぎ	2,631	86,180	100	101
ス プ レ イ ぎ	746	25,190	102	104
小 ぎ	1,613	46,760	98	98
カ ー ネ ー シ ョ ン	318	27,090	98	96
ば ら	365	26,990	97	98
り ん だ う	424	8,910	96	105
洋 ラ ン 類	136	1,780	96	99
ス タ ー チ ス	190	12,630	101	108
ガ ー ベ ラ	93	16,300	100	99
ト ル コ ギ キ ョ ウ	431	9,810	102	98
ゆ り	769	13,970	100	97
ア ル ス ト ロ メ リ ア	82	5,790	96	96
切 り 葉	687	13,260	96	96
切 り 枝	3,659	21,170	100	101

注：切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計値である。

ア きく

作付面積は4,990haで前年産並みとなった。

出荷量は15億8,100万本で、前年産に比べ800万本（1%）増加した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が30%で最も高く、次いで沖縄県が19%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図3 きくの都道府県別出荷量割合

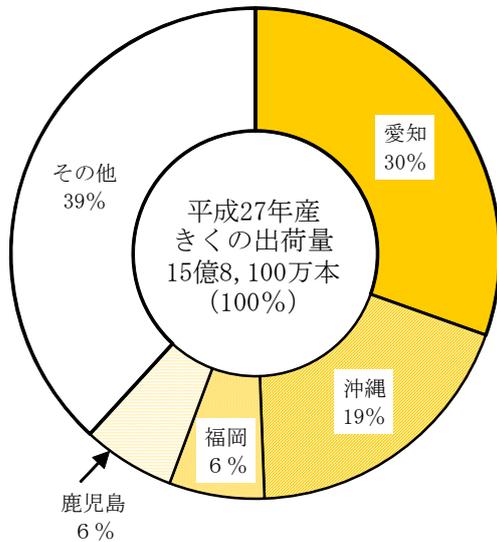
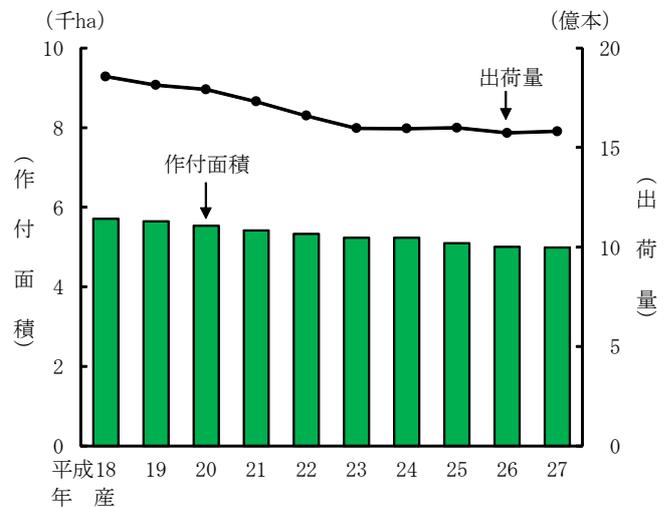


図4 きくの作付面積及び出荷量の推移



イ カーネーション

作付面積は318haで、前年産に比べ8ha（2%）減少した。

出荷量は2億7,090万本で、前年産に比べ1,210万本（4%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が19%で最も高く、次いで愛知県が17%、北海道及び兵庫県が11%となっており、この4道県で全国の約6割を占めている。

図5 カーネーションの都道府県別出荷量割合

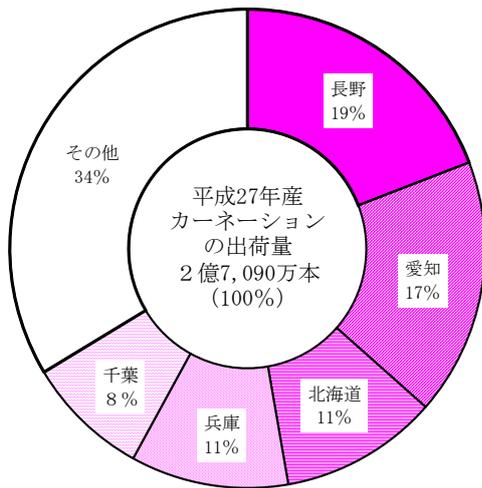
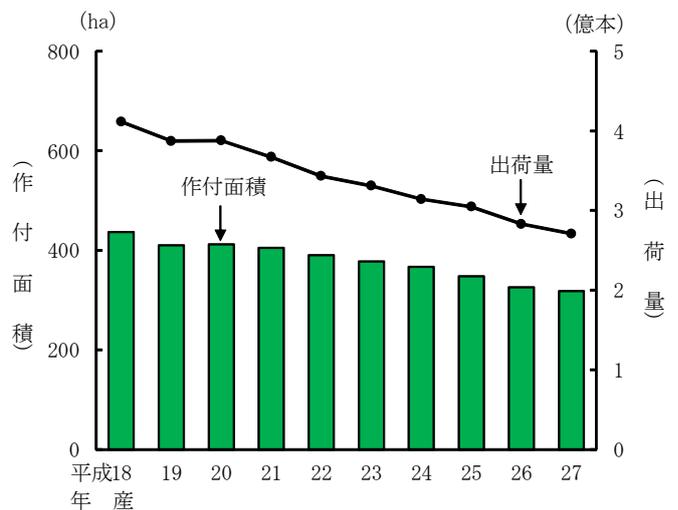


図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移



ウ ばら

作付面積は365haで、前年産に比べ13ha（3%）減少した。これは、春先までの加温期における燃油価格の高止まりの影響から規模縮小したこと等による。

出荷量は2億6,990万本で、前年産に比べ660万本（2%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が18%で最も高く、次いで静岡県が8%、山形県及び福岡県が7%となっている。

図7 ばらの都道府県別出荷量割合

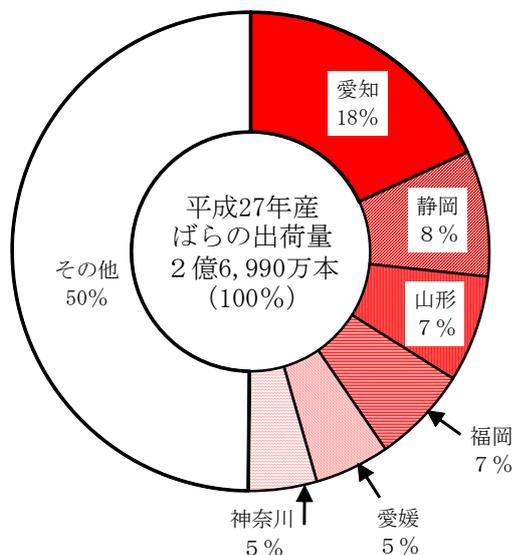
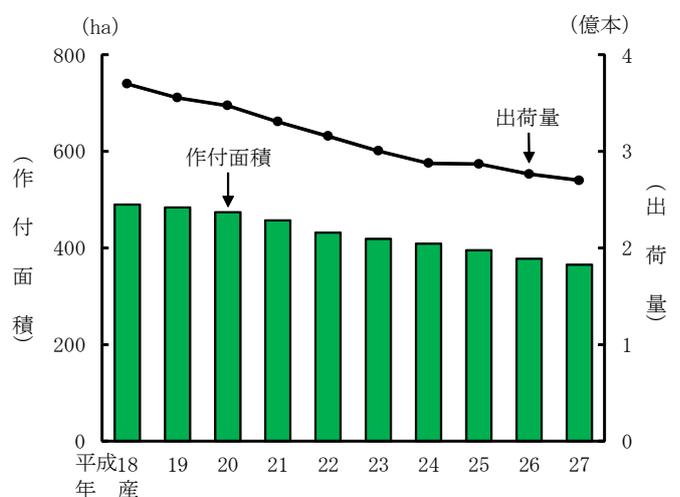


図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移



エ リンドウ

作付面積は424haで前年産に比べ16ha（4％）減少した。これは、岩手県において労力不足のため規模縮小したこと等による。

出荷量は8,910万本で、前年産に比べ390万本（5％）増加した。これは、生育が良好だったことによる。

都道府県別出荷量割合は、岩手県が全国の6割を占めている。

図9 リンドウの都道府県別出荷量割合

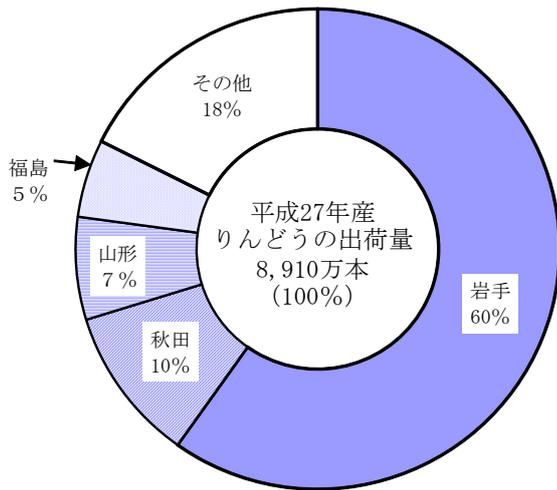
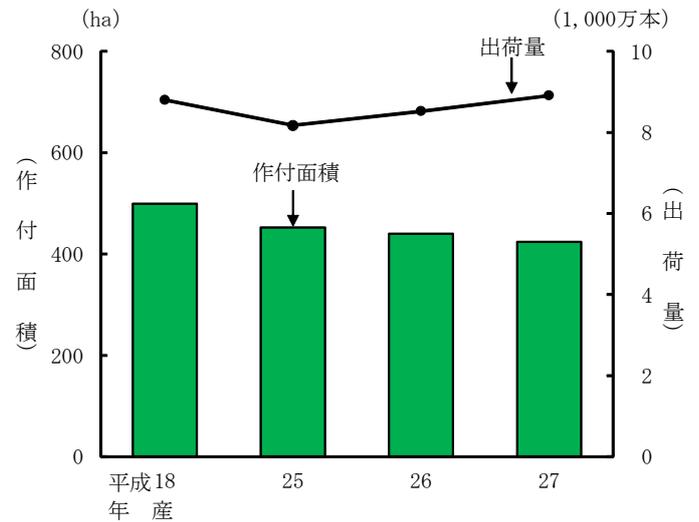


図10 リンドウの作付面積及び出荷量の推移



注：平成19年産から平成24年産までは調査対象品目の見直しを行ったことから調査を実施していない。

オ 洋ラン類

作付面積は136haで、前年産に比べ5ha（4％）減少した。これは、労力不足のため規模縮小したこと等による。

出荷量は1,780万本で、前年産に比べ10万本（1％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、福岡県が17%で最も高く、次いで徳島県が15%、沖縄県が10%となっている。

図11 洋ラン類の都道府県別出荷量割合

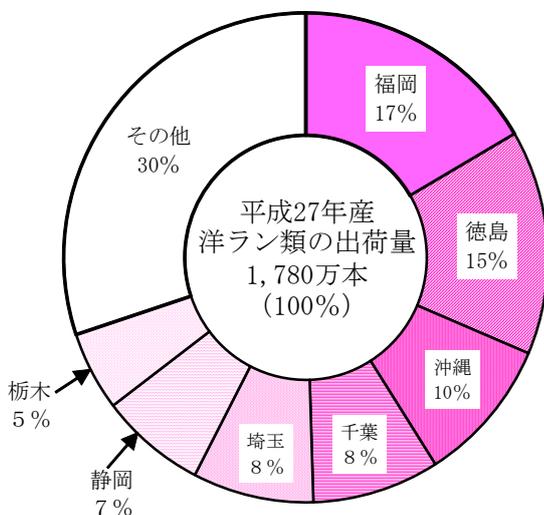
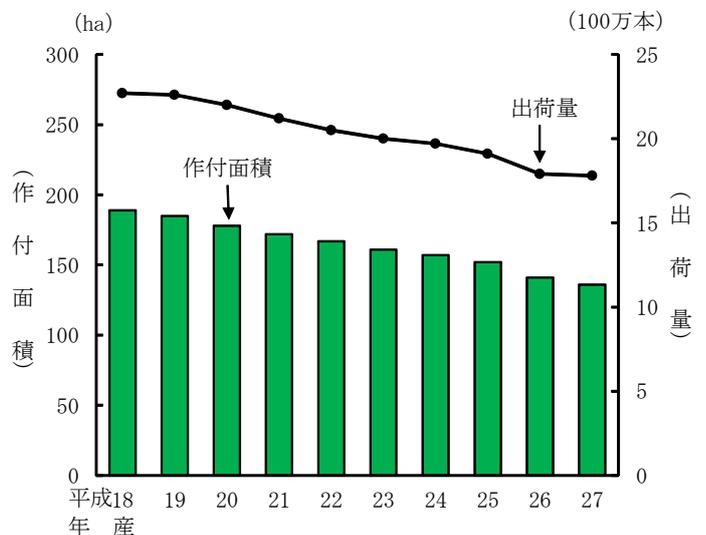


図12 洋ラン類の作付面積及び出荷量の推移



カ スターチス

作付面積は190haで、前年産に比べ1 ha（1%）増加した。

出荷量は1億2,630万本で、前年産に比べ900万本（8%）増加した。これは、北海道において生育が良好だったことによる。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が全国の約5割を占めている。

図13 スターチスの都道府県別出荷量割合

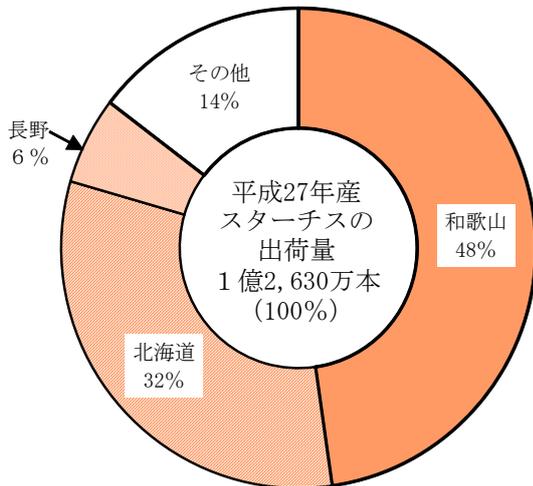
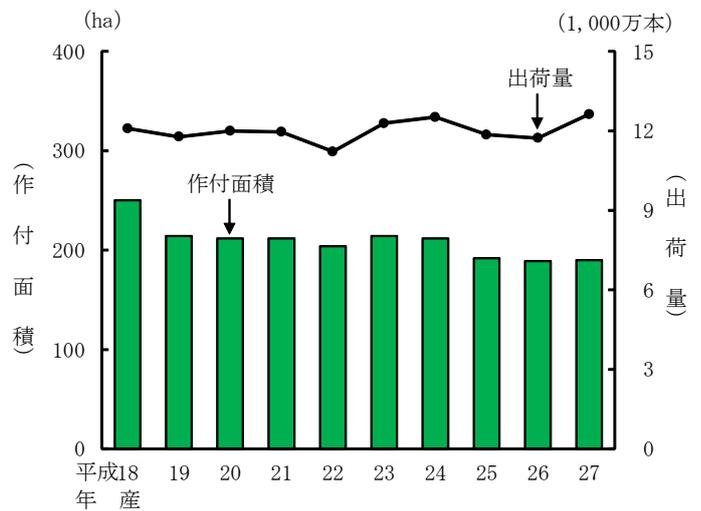


図14 スターチスの作付面積及び出荷量の推移



キ ガーベラ

作付面積は93haで、前年産並みとなった。出荷量は1億6,300万本で、前年産に比べ200万本（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が38%で最も高く、次いで福岡県が14%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図15 ガーベラの都道府県別出荷量割合

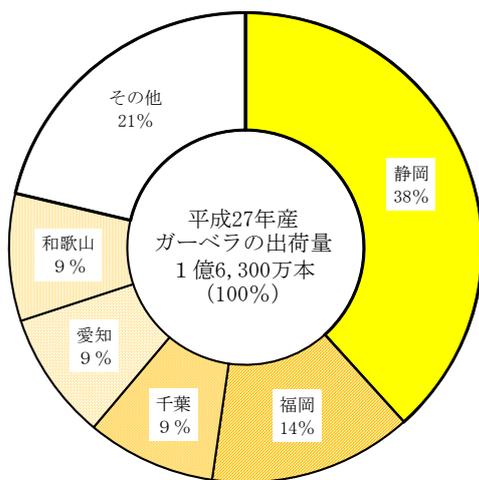
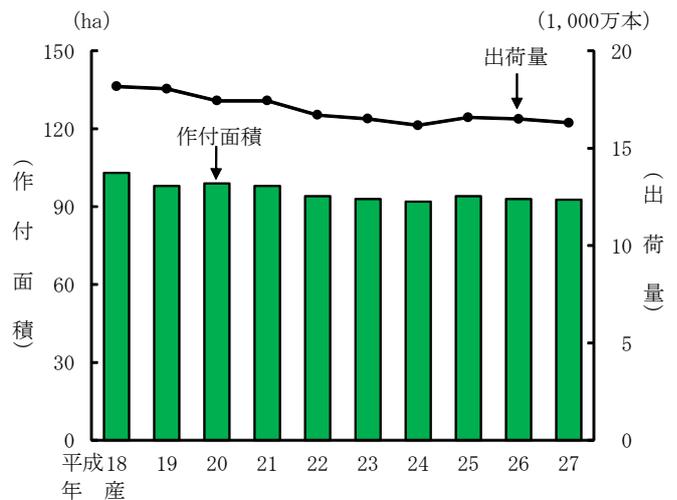


図16 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移



ク トルコギキョウ

作付面積は431haで、前年産に比べ7ha（2％）増加した。

出荷量は9,810万本で、前年産に比べ190万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が13％で最も高く、次いで熊本県が12％、福岡県が10％となっている。

図17 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合

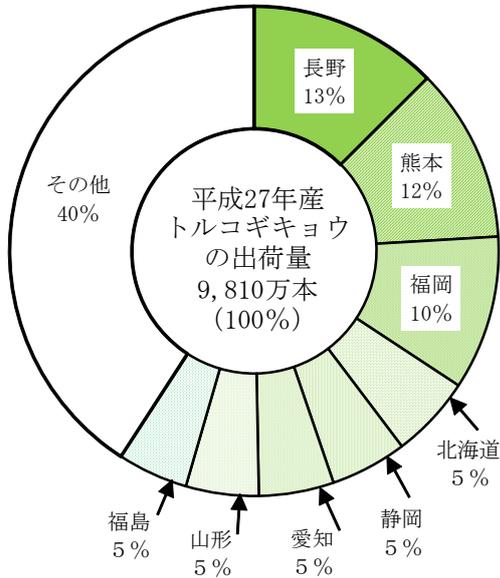
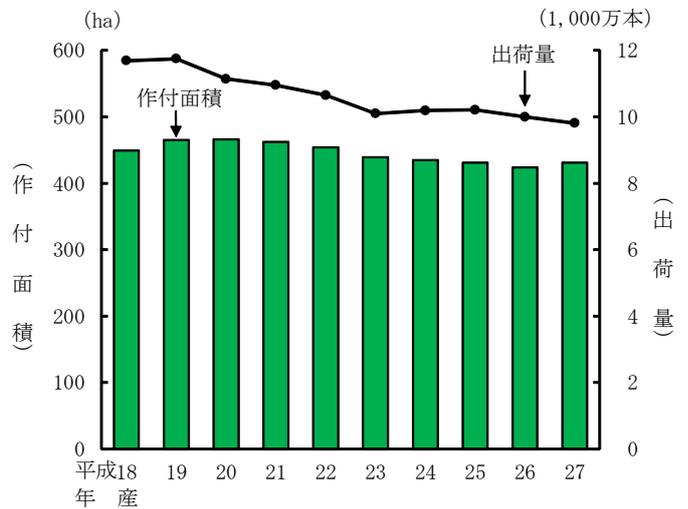


図18 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移



ケ ゆり

作付面積は769haで、前年産並みとなった。出荷量は1億3,970万本で、前年産に比べ440万本（3％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が20％で最も高く、次いで高知県が12％、新潟県が10％となっている。

図19 ゆりの都道府県別出荷量割合

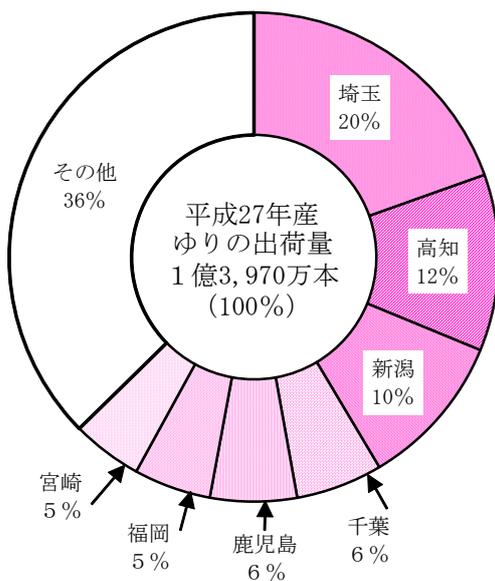
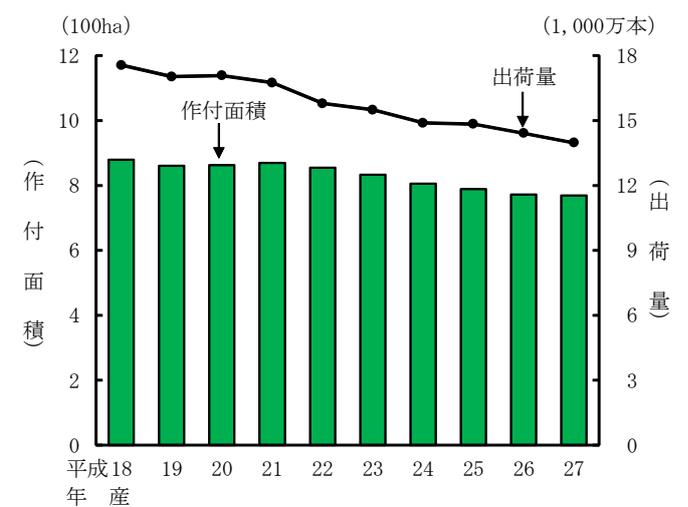


図20 ゆりの作付面積及び出荷量の推移



コ アルストロメリア

作付面積は82haで、前年産に比べ3ha（4%）減少した。これは、労力不足のため規模縮小したこと等による。

出荷量は5,790万本で、前年産に比べ240万本（4%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が34%で最も高く、次いで愛知県が18%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図21 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合

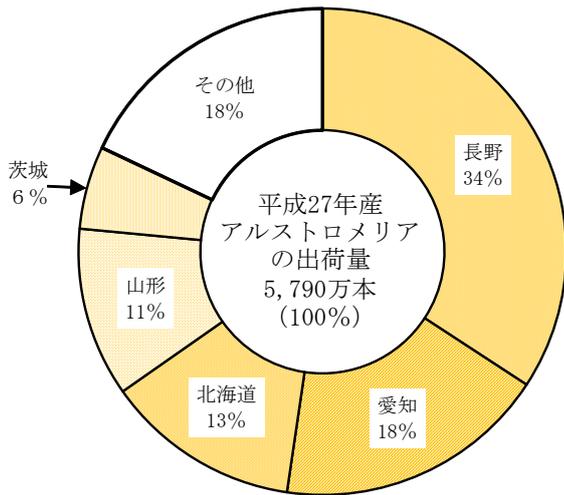
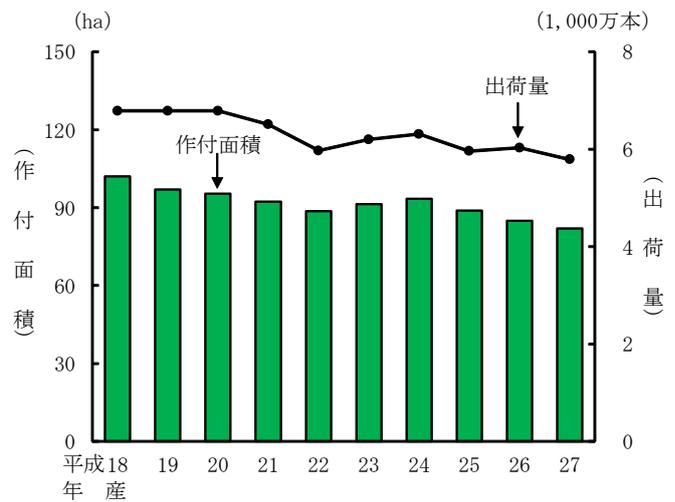


図22 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移



サ 切り葉

作付面積は687haで、前年産に比べ27ha（4%）減少した。これは、労力不足のため規模縮小したこと等による。

出荷量は1億3,260万本で、前年産に比べ500万本（4%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、東京都が34%で最も高く、次いで沖縄県が22%となっており、この2都県で全国の約6割を占めている。

図23 切り葉の都道府県別出荷量割合

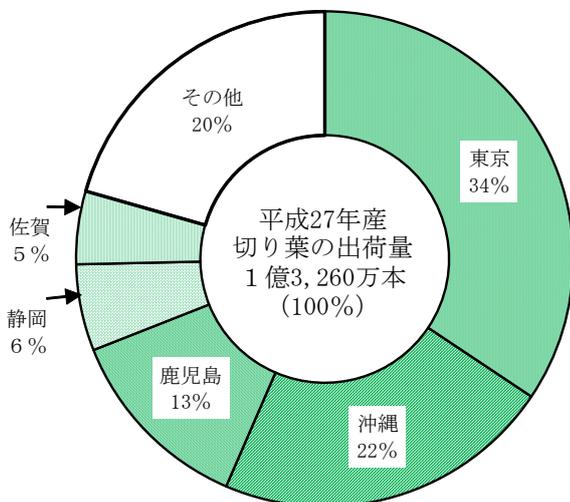
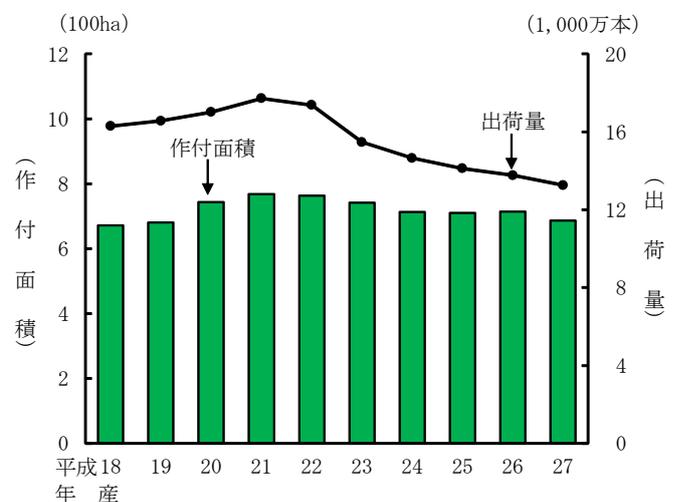


図24 切り葉の作付面積及び出荷量の推移



シ 切り枝

作付面積は3,659haで、前年産並みとなった。

出荷量は2億1,170万本で、前年産に比べ220万本（1%）増加した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が15%で最も高く、次いで茨城県が14%、和歌山県が9%となっている。

図25 切り枝の都道府県別出荷量割合

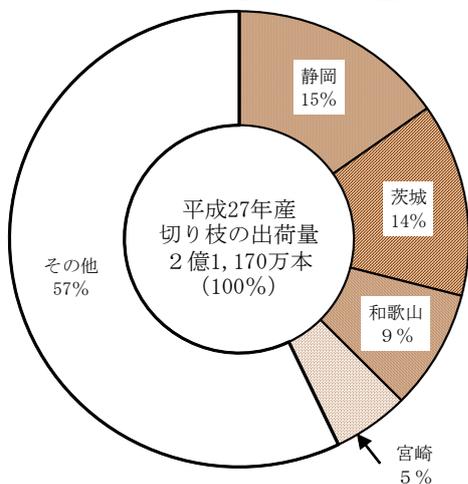
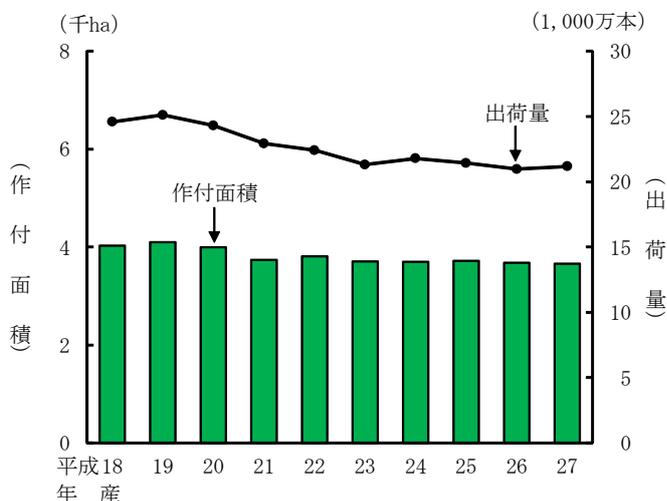


図26 切り枝の作付面積及び出荷量の推移



(2) 球根類

収穫面積は364haで、前年産に比べ15ha（4%）減少した。これは、労力不足のため規模縮小したこと等による。

出荷量は1億200万球で、前年産に比べ610万球（6%）減少した。これは、収穫面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が25%で最も高く、次いで新潟県が19%、富山県が17%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

表3 平成27年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
球根類計	364 ha	10,200 万球	96 %	94 %

図27 球根類の都道府県別出荷量割合

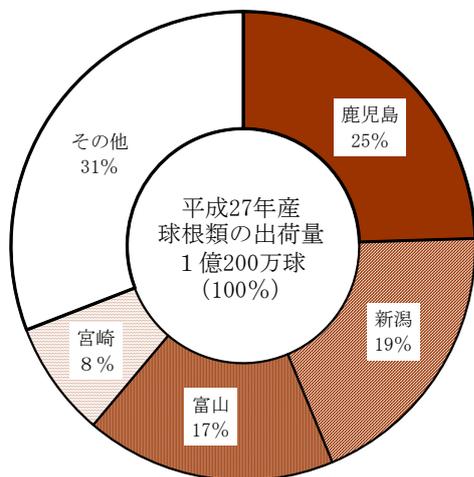
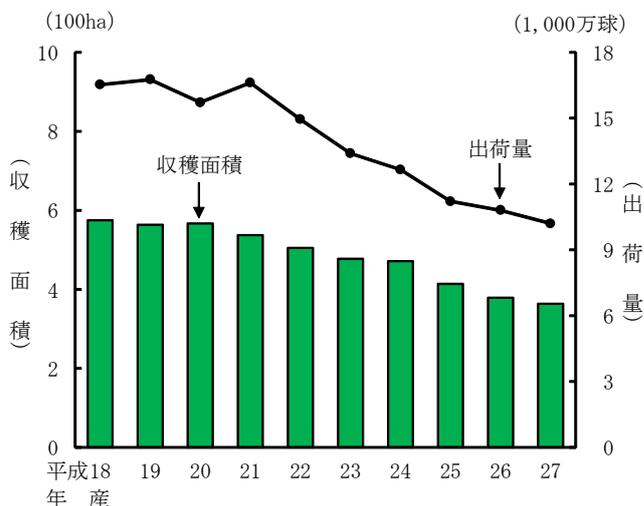


図28 球根類の収穫面積及び出荷量の推移



(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,732haで、前年産に比べ32ha（2%）減少した。

出荷量は2億2,960万鉢で、前年産に比べ400万鉢（2%）減少した。

品目別にみた出荷量の構成割合は、花木類が20%、観葉植物が18%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっている。

表4 平成27年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
	ha	万鉢	%	%
鉢ものの類	1,732	22,960	98	98
うちシクラメン	189	1,760	97	95
洋ラン類	200	1,600	95	101
観葉植物	320	4,230	102	99
花木類	415	4,600	98	95

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計値である。

図29 鉢ものの類の品目別出荷量割合

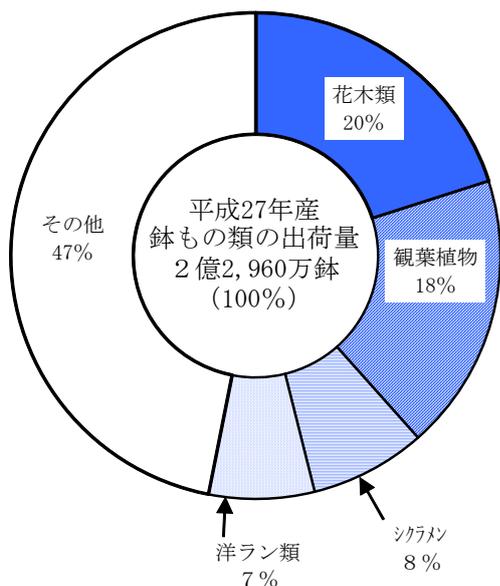
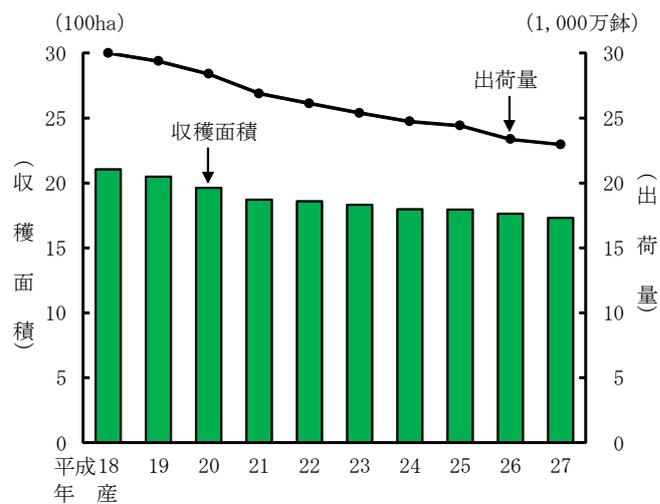


図30 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移



ア シクラメン

収穫面積は189haで、前年産に比べ5ha（3%）減少した。これは、労力不足のため規模縮小したこと等による。

出荷量は1,760万鉢で、前年産に比べ100万鉢（5%）減少した。これは、収穫面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が16%で最も高く、次いで愛知県が10%、茨城県及び栃木県が6%となっている。

図31 シクラメンの都道府県別出荷量割合

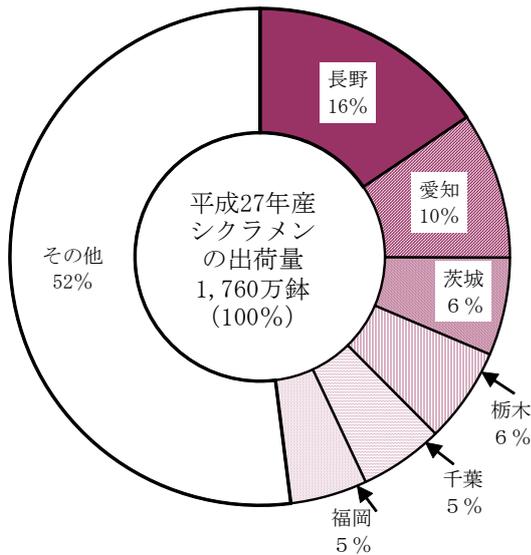
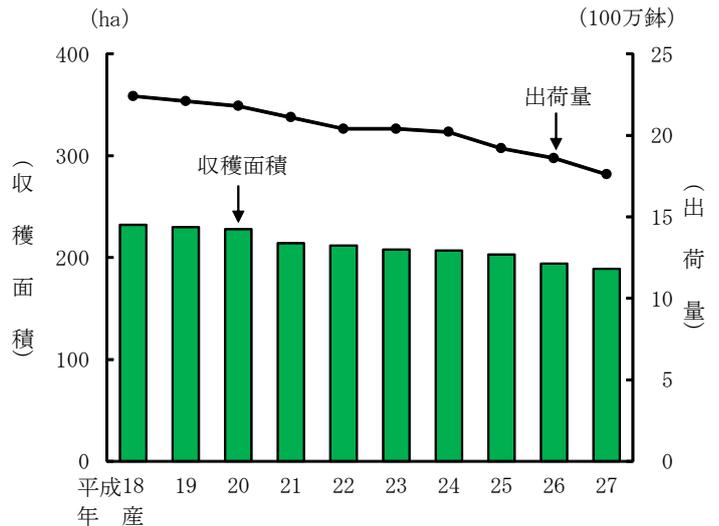


図32 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移



イ 洋ラン類

収穫面積は200haで、前年産に比べ10ha（5%）減少した。

出荷量は1,600万鉢で、前年産に比べ10万鉢（1%）増加した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が24%で最も高く、次いで熊本県が11%、福岡県が8%となっている。

図33 洋ラン類の都道府県別出荷量割合

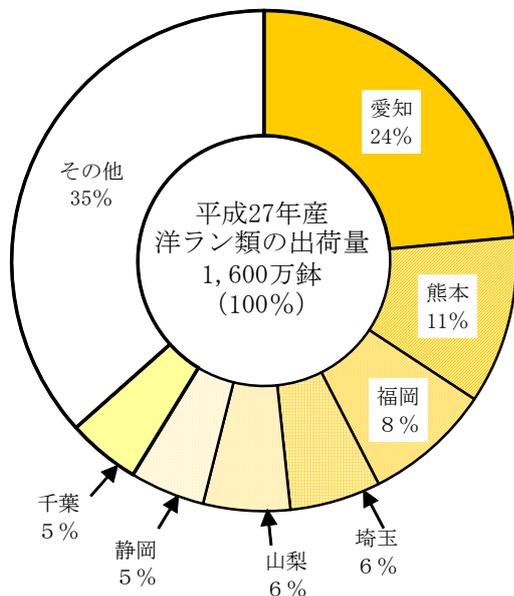
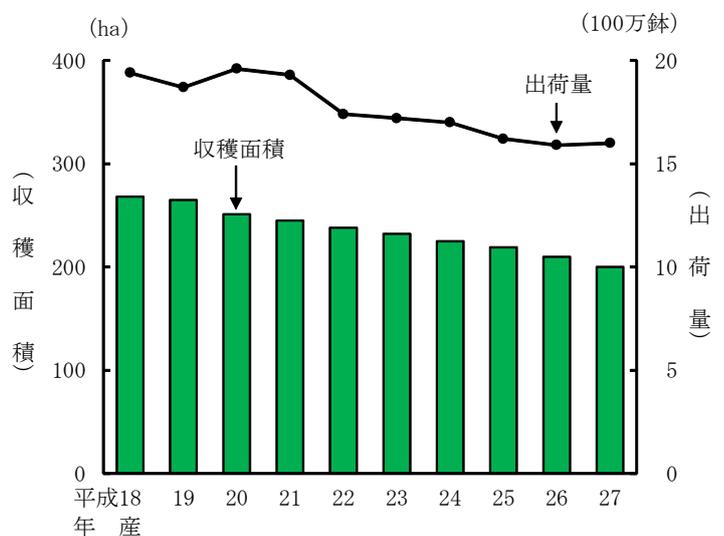


図34 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移



ウ 観葉植物

収穫面積は320haで、前年産に比べ5 ha（2%）増加した。
 出荷量は4,230万鉢で、前年産に比べ60万鉢（1%）減少した。
 都道府県別出荷量割合は、愛知県が全国の約5割を占めている。

図35 観葉植物の都道府県別出荷量割合

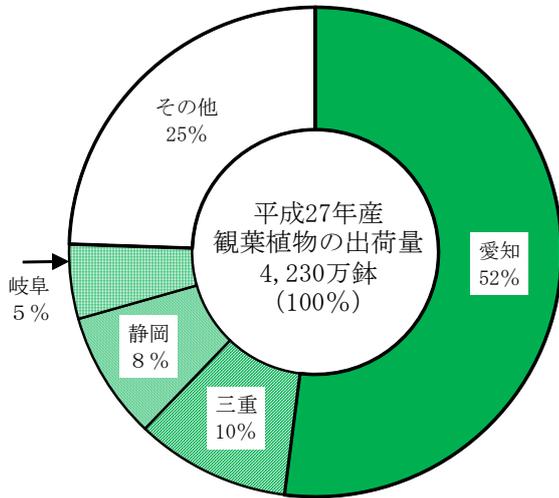
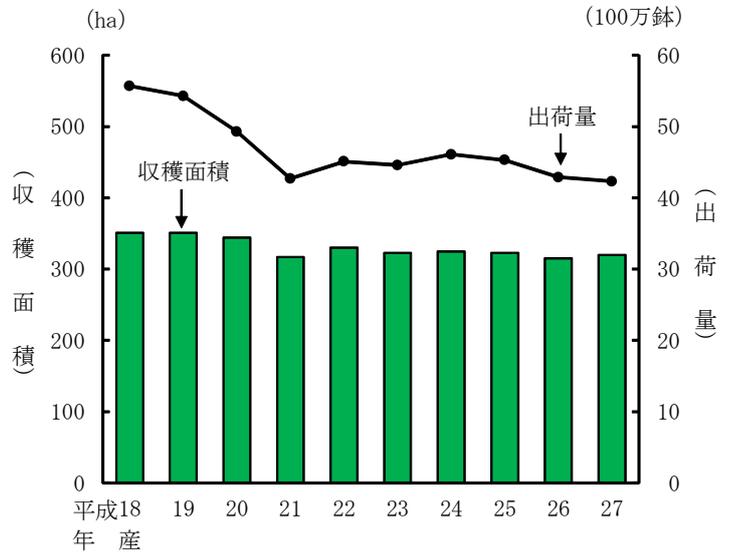


図36 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移



エ 花木類

収穫面積は415haで、前年産に比べ9 ha（2%）減少した。
 出荷量は4,600万鉢で、前年産に比べ220万鉢（5%）減少した。これは、生育期間の天候不順の影響等による。
 都道府県別出荷量割合は、愛知県が28%で最も高く、次いで新潟県が19%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図37 花木類の都道府県別出荷量割合

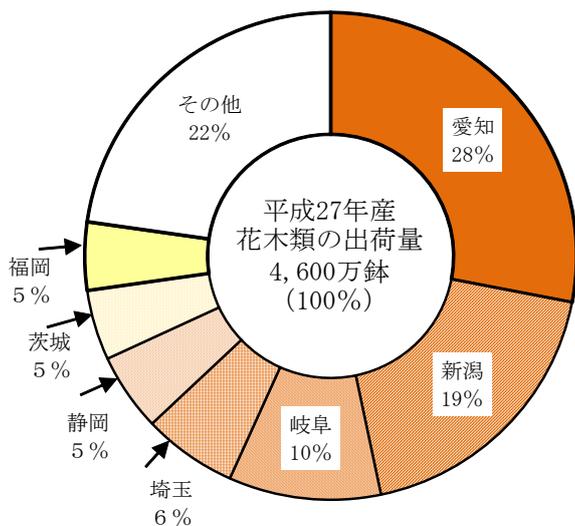
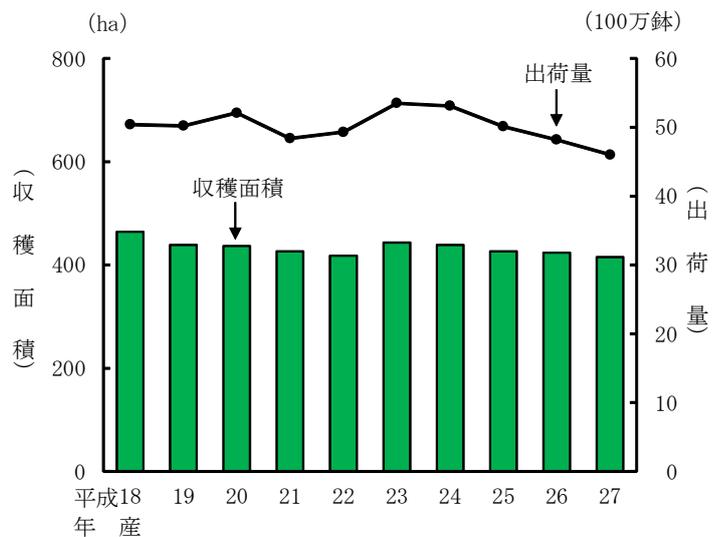


図38 花木類の収穫面積及び出荷量の推移



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,488haで、前年産並みとなった。

出荷量は6億6,600万本で、前年産に比べ2,640万本（4%）減少した。これは、生育期間の天候不順の影響等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が9%で最も高く、次いで埼玉県及び千葉県が8%となっている。

表5 平成27年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量（全国）

品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
花壇用苗もの類	1,488	66,600	100	96
うちパンジー	287	13,870	98	96

注：花壇用苗もの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計値である。

図39 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合

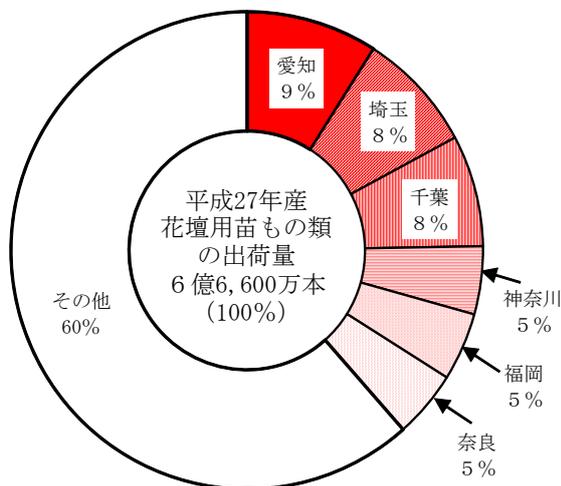
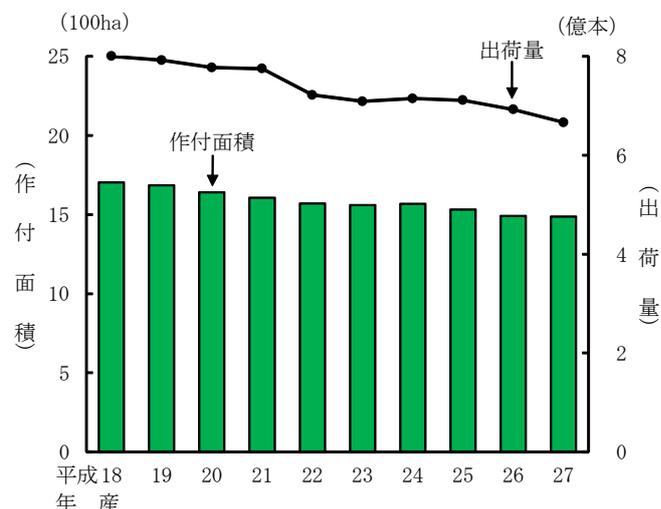


図40 花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量の推移



このうちパンジーの作付面積は287haで、前年産に比べ7ha（2%）減少した。

出荷量は1億3,870万本で、前年産に比べ570万本（4%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が8%で最も高く、次いで神奈川県及び奈良県が7%となっている。

図41 パンジーの都道府県別出荷量割合

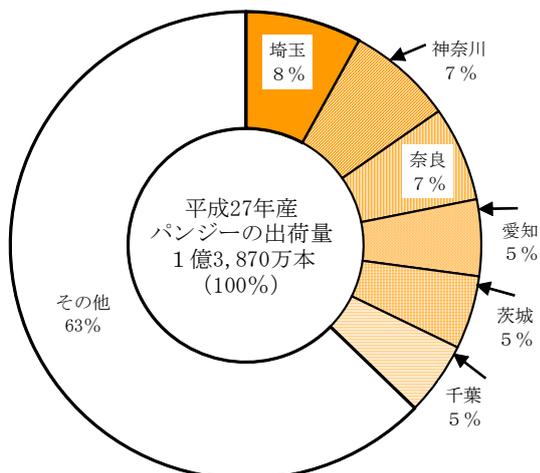


図42 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

